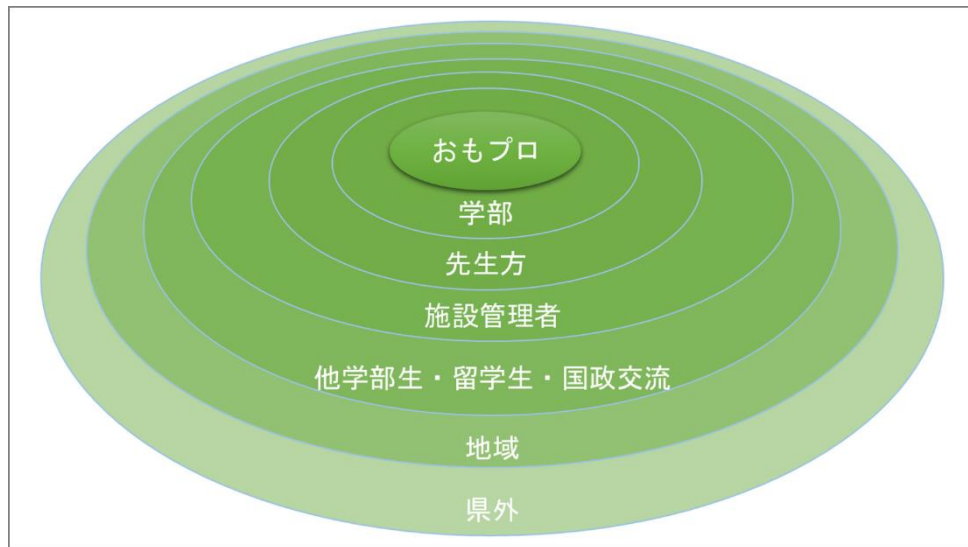


来たれ！農場めぐりあい

		代表者	渡部	幹菜（農学B1年）		
構成員	磯部	鈴音（農学B1年）	加藤	証（農学B1年）	佐々木	結香（農学B1年）
	仲尾	まどか（農学B1年）	本正	昂大（農学B1年）	松尾	育代（農学B1年）
	安本	珠緒（農学B1年）	和田	朋美（農学B1年）	渡邊	七海（農学B1年）

1. プロジェクトの目的

「来たれ！農場めぐりあい」は、今日の情報化社会の中で、農業を通じてのコミュニケーション「農コミュニケーション」をとることで、学生や教職員など学内だけでなく、地域も含めた多くの方に自然や人との関わりを感じてもらうことを目的とする企画です。3年という期間でこの交流の輪を広げられるように1年目ではその基礎を固めます。この目的のため、大きく分けて次の二つの活動を行います。一つ目は、野菜づくりです。山口大学の附属農場をお借りして、「土づくり」、「野菜育成」、「調理方法研究」、「片付け」を行います。二つ目は、「オープンキャンパス」と「農場祭」で野菜販売や調理販売を行い農業の素晴らしさを知ってもらい、次年度学外でも農業体験などを行えるよう知識や技術、情報、人脈を得ます。



プロジェクト概念図

2. 「八代田植祭」

5月20日に周南市八代で開催された「第4回八代田植祭」に参加しました。メンバー5人揃っての参加です。

午前中は田植えを行い、現在の農業技術について学びました。午後は周南市つるの里交流センターで、地元的女性の方々が振る舞う「豚汁」と「おにぎり」を美味しくいただきました。その後、「第4回八代田植祭」に参加した全員でビンゴ大会を行いました。とても盛り上がりました。メンバー全員にビンゴ景品が当たりました。参加賞として、全員に八代でつくられたお米が一人1kgずつ配られました。午前は田植え、午後はビンゴ大会と一日中楽しめるイベントでした。メンバー同士の仲も深めることができ、本当に良かったです。

3. 夏野菜栽培

6月28日に夏野菜（サツマイモ「安納芋」、サツマイモ「金時」、オクラ、トマト、キュウリ）の植え付けを「来たれ！農場めぐりあい」のメンバーと協力者とともに行いました。7月3日には台風襲来に備えて、畑のトマトに支柱立てを行いました。キュウリは全滅し、またトマトは一部分台風の被害に遭い、収穫は厳しい状態でした。



「第4回八代田植祭」の会場

一方オクラは想像を上回るほど大きくなり、たくさん収穫することができました。「安納芋」と「金時」は11月に「来たれ！農場めぐりあい」のメンバーと様々な学部、留学生の方などで芋ほりを行いました（下記参照）。自然のなかで野菜を育てることの厳しさから様々なことを学び、みんなで育てた野菜ができたときの喜びや感謝の気持ち、農業の大切さをあらためて感じることができました。



夏野菜栽培での記念撮影



夏野菜栽培圃場



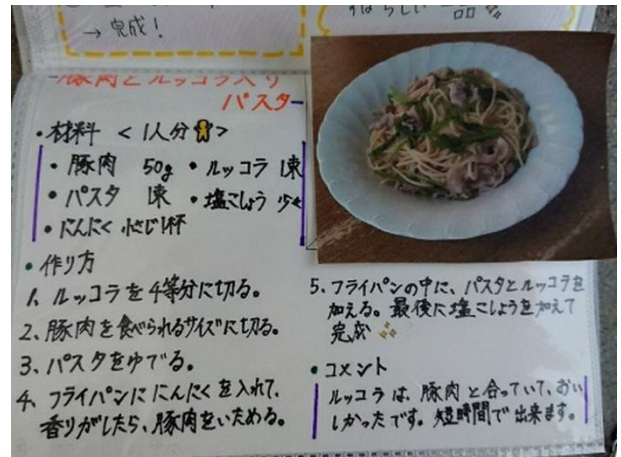
大きく成長したオクラ

4. 「オープンキャンパス」

8月4日に「オープンキャンパス」が開催され、私達「来たれ！農場めぐりあい」も参加しました。大学に来てくださった高等学校の生徒や保護者の方々に「来たれ！農場めぐりあい」の活動についての説明と温室でとれた乾燥バジルの配布やレシピ紹介などを行いました。活動内容や目的、野菜作りの楽しさなどを自分の言葉で伝えるのは、難しかったのですが、そういうものを改めて認識することができて、良かったです。乾燥バジルは、いい香りがする、色がきれいなどの感想をいただくことができ、私達の努力が実を結んだように感じました。



「オープンキャンパス」での記念撮影



栽培中のルッコラのレシピ紹介

5. 冬野菜栽培

10月11日、冬野菜の種まきをしました。8月に夏野菜の定植を行ったときは参加者が農学部からしかいなかったのですが今回は農学部に加え経済学部、人文学部からも参加者があり、ほぼ初対面の人と種まきをするのは新鮮でした。夏野菜を育てたときは野菜作りをするのが初めてだったこともあり、やりかたが分からず戸惑ったり、雑草を放置して大繁殖させてしまったりなどの失敗がありました。そのときの経験を活かして、カブ、ほうれん草、小松菜を栽培しました。収穫した野菜を入れる袋やラベルもこだわり、自作しました。



冬野菜の種まきの様子



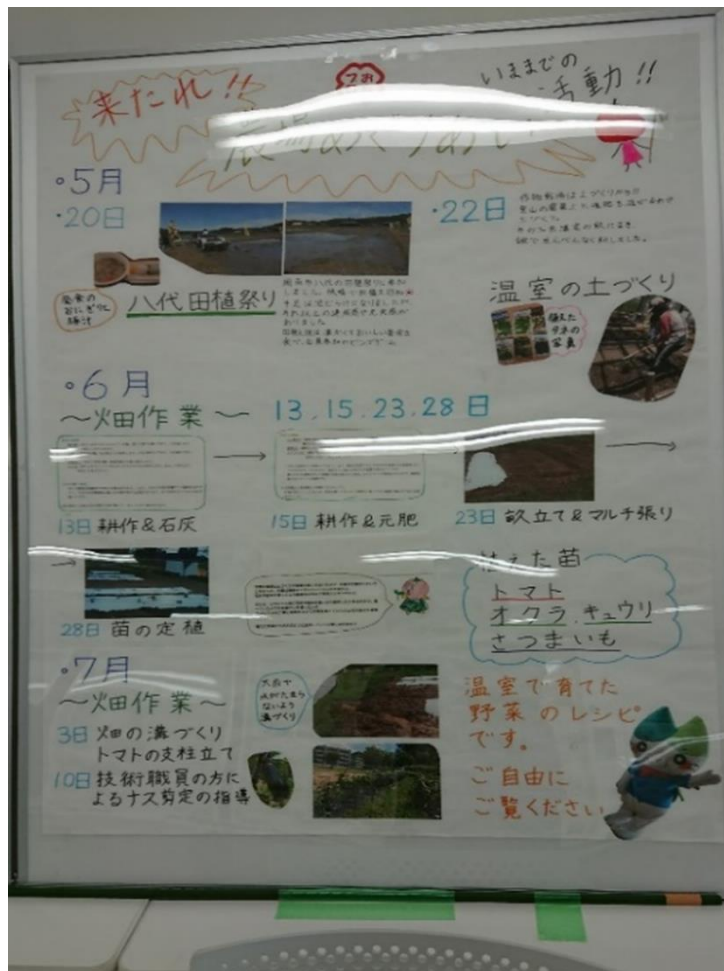
収穫野菜、こだわりの袋やラベルとともに記念撮影

6. 「ホームカミングデー」

10月27日、「来たれ！農場めぐりあい」からメンバー4人が参加しました。他の「山口大学おもしろプロジェクト」のグループの方と互いの活動を紹介しあったりして交流をしました。当たり前ですが同じ「山口大学おもしろプロジェクト」でも全く違う活動をしていて新鮮でした。また、この日会った人に「来たれ！農場めぐりあい」の活動に参加してもらおうことも決まりました。交流の幅が広がり参加してよかったです。

7. 芋ほり

11月11日、「安納芋」、「金時」という品種のサツマイモを収穫しました。この日の芋ほりに備えて8日に試し



「ホームカミングデー」での活動紹介パネル

掘りをするなどして入念に準備をして臨みました。試し掘りのときは想像以上にたくさん収穫できたので当日の人手不足を心配していたのですが、今回も先月の冬野菜の収穫の時と同様たくさんの方が来てくれたおかげで杞憂に終わってよかったです。今回も、農学部だけではなく、人文学部、教育学部、教育学部、理学部、工学部、経済学部といったたくさんの学部から参加者がありました。イベントごとに参加者の学部の種類が増えていて嬉しいです。初対面同士の方が多いのを心配していましたが、楽しく交流を行っていたようでほっとしました。芋ほりが終わった後に掘った芋の総数を当てるクイズを行い、数を僅差で当てた男子に一番大きな芋を持って帰ってもらいました。



芋ほりの様子

8. 鍋パーティー

12月2日、平川公民館で鍋パーティーをしました。山口大学の学生だけでなくメンバーの両親や飛び入りで参加して下さった地域の方など年齢や所属が違う人達が交流できて良かったです。一番嬉しかったのは鍋がおいしかったという感想をたくさんいただいたことです。自分達が育てて、調理したものを大人数の人に食べてもらうという経験は初めてでした。手間をかけて育てた甲斐がありました。改善すべきこともありました。仲がよい友達同士で固まってしまう一人で来た人や初対面の人同士は会話に入れなかったところや、テーブルによっては会話が弾んでいないところもありました。ごはんとテーブルだけを用意して交流をしてね、というのは人によっては負担が大きいことだったかもしれません。また活動に参加しようと思ってほしいので、今後このような食事会をするときは対策を考えるべきだと思いました。



鍋パーティーで振舞った料理

9. リース作り

クリスマスが近いということで、12月13日と19日にサツマイモのつるを使ったリース作りをしました。花の造花やドングリなどを飾って、それぞれオリジナルのリースを作ることができました。様々な学部の方が来てくださり、交流ができました。芋でこんなに良いものができるなんて、農業の無限の可能性を感じました。



参加者が作成したオリジナルのリース

10. 株式会社花の海への見学

2月8日、株式会社花の海への見学に行ってきました。まず、社員の方に企業についてのお話を聞かせていただきました。その後、各自自由に質問ができる時間をいただきました。個人的に役に立つと思った質問とその答

えを以下に書きます。

Q1：就職活動に向けて学生のうちにしておくべきこと

A1：様々な立場の人の話をたくさん聞き、幅の広い価値観を持つこと

Q2：仕事のやりがいをごどのようなときに感じるか

A2：お客さんに喜んでもらえたとき

Q3：農業系の企業はブラックといううわさは本当なのか

A3：過労死するほどのブラックな企業はないと思われる、ちなみに株式会社花の海はホワイト企業で繁忙期以外は定時で帰ることができ、残業手当もきちんと貰える

このように、他ではなかなか聞けないような質問に答えていただき、とても参考になりました。その後、職員の方に畑などの施設の中を案内していただきました。手作業で行う作業はあまりなく、例えば種まきや苗の収穫など機械で行う作業が多くとても効率的だ、と感動しました。1年生のうちに貴重な体験ができてよかったです。



株式会社花の海での見学の様子

11. おわりに

これらの活動を通して、当初考えていたよりも多くの方々と出会うことができました。土を介してたくさんの方々の笑顔を見ることができました。メンバーがやってきたことについて熱弁しているのを真剣に聞いてくださった方々や、丁寧に優しく時に厳しく教えてくださった先生方、協力してくださったすべての方々にとても感謝しています。農業というものは非常に奥が深く、難しいものだと、活動をしながら痛感しました。しかし、だからこそやりがいがあり、喜びも大きいのです。その喜びや農業のすばらしさ、やってきた努力を多くの人に知ってほしいという想いで、今後の活動も行っていきたいと考えます。まだまだ勉強すべきことがたくさんあるので、一つひとつ身に付け、自分達も周りも楽しめるような、感じるものがあるような活動にしていけるため、努力していきます。